

CZ-477-07



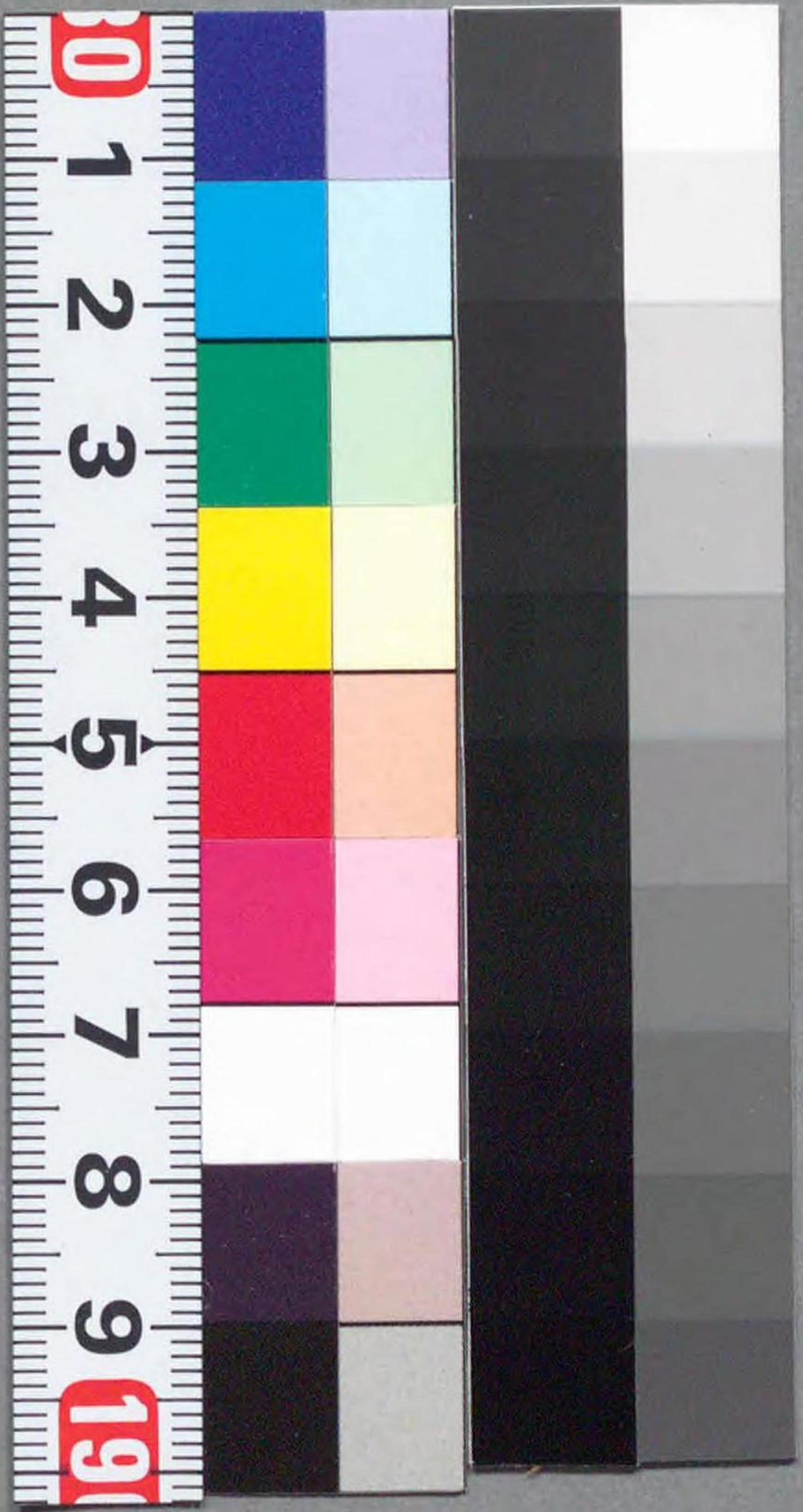
1200901599456

396
38

CZ
477
07

船舶積量測度法規抄

禁電子式複写





大正九年十一月

船舶積量測度法規拔抄

農商務省水產局

C2
477
09

396-38

船舶積量測度法

第一條 船舶ノ積量ハ百立方「フート」ヲ以テ一噸トシ之ヲ測度ス

第二條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニアリテハ上甲板ヲ量噸甲板トス

第三條 甲板一層又ハ二層ヲ備フル船舶ニアリテハ量噸甲板下ノ噸數

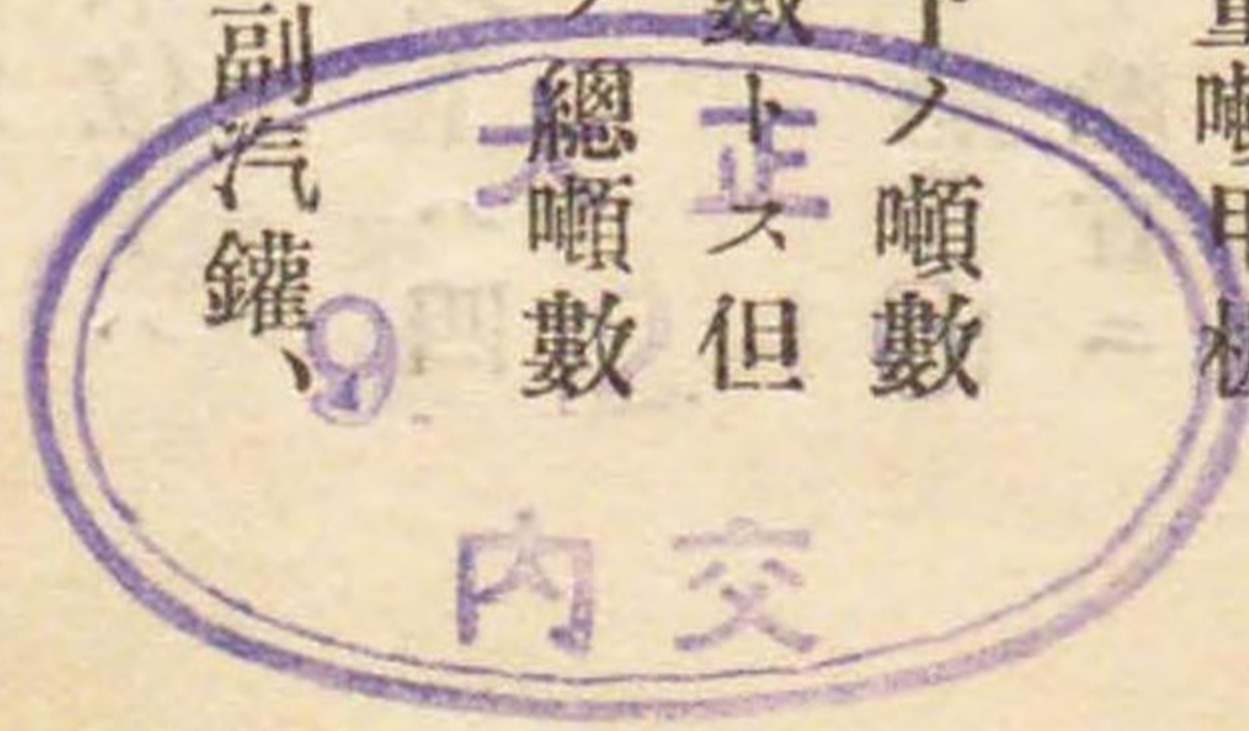
キ量噸甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ總噸數トス但シ左ニ掲クル場所ニシテ上甲板上ニアルモノ、噸數ハ之レヲ總噸數ニ算入セス

一、操舵機具、繫船機具、揚錨機具及ヒ主機關ト連絡セサル副汽鐘、副汽機ニ供用セラレ、場所

二、機關室、操舵室、賄室及出入口室

三、採光通風ニ要スル場所及便所

四、主務大臣ニ於テ船舶ノ安全、衛生又ハ利用上前各號ニ揚クルモノニ準スヘキモノト認ムルモノ



船舶積量測度規程

第一章 總則

第一條 長、幅、深、高及厚ヲ測定スルニハ噸數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在リテハ呎ヲ以テ單位トシ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スヘシ但シ分長點又分深點ノ間隔ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ四位以下ハ四捨五入スヘシ
面積、容積及噸數ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スヘシ

第二條 量噸甲板ノ長ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

甲板ヲ備フル船舶ニアリテハ中心線ニ於テ量噸甲板上ニ沿ヒ船首內張板ノ內面ヨリ船尾內張板ノ內面ニ至ル距離ヲ測リ之レヨリ船首ニ於テハ甲板ノ厚ニ從ヒ船首材ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シ船尾ニ於テハ甲板ノ厚ニ終尾船梁梁矢ノ三分ノ一ヲ加ヘタルモノニ從ヒ船尾肋骨ノ傾斜ニ對スル甲板ノ長ヲ減シタルモノ

第三條 分長點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ヲ左表ニ依リ等分シタル點及首尾兩端ノ點ヲ謂フ

量噸甲板ノ長	等分數
五十呎以下	四
五十呎ヲ超エ百二十呎以下	六

第四條 分長點ノ深ト稱スルハ左ニ掲クルモノヲ謂フ

甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ中心線ニ於テ量噸甲板ノ下面ヨリ肋根材ノ上面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ船底內張板ノ平均ノ厚及梁矢ノ三分ノ一ヲ減シタルモノ

第五條 分深點ト稱スルハ量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深ニ應シ左表ニ依リ各分長點ノ深ヲ等分シタル點及上下兩端ノ點ヲ謂フ

量噸甲板ノ長ノ中央ニ於ケル分長點ノ深	等分數
--------------------	-----

十六呎以下	四
十六呎ヲ超ユルモノ	六

四

第六條 分深點ノ幅ト稱スルハ各點ニ於ケル船側内張板ノ内面ヨリ内面ニ至ル水平距離ヲ謂フ

第九條 形狀正整ナル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ第三章乃至第五章ノ規定ニ拘ラス其ノ内面ニ於ケル平均ノ長、幅及高又ハ深ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第十條 第三章乃至第五章ノ規定ニ於テ一區分トシテ容積ヲ算定スヘキ場所ニシテ形狀複雑ナルモノニ在リテハ検査官吏ニ於テ計算上精密ノ結果ヲ得ヘシト認ムル場合ニ限り之ヲ二箇以上ニ區分シ各區分毎ニ當該規定ヲ適用シ其ノ容積ヲ算定スルコトヲ得

第十二條 分長點ニ於ケル横截面積ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

分長點ノ深ヲ四等分又ハ六等分シタルトキハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ偶數ニ當ル幅ハ四倍シ上下兩端ヲ除キ奇數ニ當ル幅ハ二倍シ其ノ和ニ上下兩端ノ幅ヲ加ヘ之ニ分深點間隔ノ三分ノ一ヲ乘スヘシ

第十三條 量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ特ニ規定アル場合ヲ除クノ外分長點ニ於ケル横截面積ヲ船首ヨリ數ヘ偶數ニ當ル面積ハ四倍シ首尾兩端ヲ除キ奇數ニ當ル面積ハ二倍シ其ノ和ニ首尾兩端ニ當ル面積ヲ加ヘ之ニ分長點間隔ノ三分ノ一ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

第三章 量噸甲板上ノ噸數

第十八條 上甲板上蔽圍シタル場所ノ噸數ヲ算定スルニハ左ノ規定ニ依ル

- 一、量噸甲板ノ長ノ二分ノ一以下ノ長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他蔽圍シタル場所ニ在リテハ高ノ中央ニテ前後及中央ニ於ケル内面ノ幅ヲ測リ中央ノ幅ノ四倍ニ前後ノ幅ヲ加ヘ之ニ平均ノ長ノ六分ノ

一ト平均ノ高トヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ
 二、量噸甲板ノ長ノ二分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船樓、甲板室其ノ他
 蔽圍シタル場所ニ在リテハ其ノ長ヲ四等分シ前條ニ規定スル方法
 ヲ準用スヘシ

第四章 總噸數ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十條 船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ其ノ側壁又ハ
 端壁ニ幅三呎以上高四呎以上(緣材ヲ附スルトキハ其ノ高二呎以下)
 ナル一箇以上ノ出入口ヲ有シ之ニ扉又ハ之ニ準スヘキ常設閉鎖裝置
 ヲ備ヘサルトキハ其ノ噸數ヲ總噸數ニ算入セス
 但シ出入口一箇ノミヲ有スル船樓ニシテ其ノ兩舷側ニ適當ノ排水口
 及排水孔ヲ備ヘサル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條 艙口ノ噸數カ總噸數ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ噸數ノ
 千分ノ五以下ナルトキハ之ヲ總噸數ニ算入セス
 艙口ノ噸數カ總噸數ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ噸數ノ千分ノ五

ヲ超ユルトキハ其ノ超過噸數ニ限リ之ヲ總噸數ニ算入ス

船舶積量測度心得

- 第一條 船舶ノ積量ハ登記登錄ノ基礎トナリ諸稅手數料賦課ノ標準ト
 ナルモノナレハ之カ誤測アルニ於テハ訂正ノ手續容易ナラサルニ付
 測度ニ際シテハ特ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ精確ヲ期スヘシ
- 第二條 測度ニ當リ疑義ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ詳細ヲ具シ必要
 ト認ムルトキハ圖面ヲ添ヘ本省ノ指揮ヲ受クヘシ
- 第六條 低船首尾樓甲板ヲ備フル船舶ニ在リテハ該船樓ノ部分ニ於テ
 該甲板ト平行シテ上甲板ノ延長面ヲ假定シ之ヲ船舶積量測度法第二
 條及第三條ニ掲クル上甲板ト看做ス
- 第七條 船舶積量測度規程第二條ノ規定ニ依リ量噸甲板ノ長ヲ測ルニ
 一、船首内張板及船尾内張板ト稱スルハ量噸甲板ノ直下ニ於ケル内張

板ヲ謂フ

二、甲板ヲ備フル船舶ニアリテハ量噸甲板上ニ於テ船首ヨリ船尾ニ至ル水平距離ヲ測リ得ルトキハ量噸甲板上ニ沿ヒタル距離ノ代リニ該距離ヲ採ルモ妨ナシ

三、船尾ニ戸建ヲ有スル木製帆船ニ在リテハ量噸甲板ノ長ハ戸建ノ内面迄測ルヘシ

四、船首ニ於テ上甲板ニ傾斜アル木製帆船ニ在リテハ量噸甲板ノ長ハ該甲板ノ下面ト船首材トノ交叉部ヲ標準トシテ測ルヘシ

第十條 木船ノ内張板ノ厚ハ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

木船ノ肋根材上ニ設ケタル横木ノ高ハ内張板ノ厚ニ算入セス
木船ノ梁受板、艙内縦通材及彎曲部縦通材ハ内張板ノ一部ト看做シ船艙ノ幅ヲ測ルヘシ

第十二條 内張板ヲ備ヘサル船艙ノ深ハ肋根材ノ上面迄其ノ幅ハ肋骨ノ内面迄測ルヘシ但シ肋骨ノ心巨四吹ヲ超ユル木船ノ船艙ノ深又ハ幅

ハ外板ノ内面迄測ルヘシ

第十三條 艙内ニ内張板ヲ有シ船首尾艙又ハ機關室等ニ内張板ヲ有セサル船舶ノ船艙ノ深及幅ハ測度スヘキ箇所ノ實際ノ寸法ヲ採ルヘシ

第十六條 二重底ヲ備ヘサル船舶ノ船底ノ幅ハ肋根材ニ水平ナル部分アルトキハ該部分ノ幅ヲ採ル肋根材カ傾斜スルトキハ内龍骨ノ幅ヲ採ルヘシ

第二十條 船舶積量測度法第三條及第四條ニ掲クル副汽機トハ蒸汽唧筒及唧筒ト連結シタル汽機ヲ謂フ

第二章 量噸甲板下ノ噸數

第二十三條 漁船ノ生洲ノ噸數ハ之ヲ總噸數ニ算入ス

前項ノ生洲ニ就テハ區分測度ヲナサスシテ其ノ部分ノ分長點ノ深ハ其ノ前後ニ於ケル肋根材ノ頂面ノ延長面迄測ルヘシ

第三章 量噸甲板上ノ噸數

第二十五條 上甲板上蔽圍シタル場所ニシテ二箇以上ノ室ヨリ成ルモノ

ト雖相連續セル圍壁ヲ有スルトキハ一區劃室トシテ取扱ヒ其ノ長及幅ハ圍壁ノ内面ヨリ内面迄測ルヘシ

第二十六條 船舶積量測度規程第十八條ノ規定ニヨリ後端圓形ナル船尾樓又ハ低船尾樓ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テ平均ノ長ハ高ノ中央ニ於テ中心線ニテ船樓ノ前端内面ヨリ船尾ノ内面迄測リタルモノヲ、後端ノ幅ハ船尾端ノ幅ノ代リニ高ノ中央ニ於テ船尾材ノ前面ニテ測リタルモノヲ採ルヘシ

前項ノ方法ニ依ルヲ特ニ不適當ナリト認ムルトキハ検査官吏ハ適當ノ方法ニ依リ後端ノ幅ヲ算定スヘシ

第四章 總噸數ニ算入セサル上甲板上ノ場所

第二十八條 操舵機具、繫船機具、揚錨機具及副汽罐、副汽機ニ供用セラル、場所トハ此等ノ機具機關ニ供用スル爲特ニ設ケタル室又ハ區劃アルトキハ該室又ハ該區劃ヲ室又ハ區劃ナキトキハ其ノ實際占有スル場所及検査官吏ニ於テ其ノ取扱ニ必要ナリト認ムル場所ヲ加ヘ

タルモノヲ謂フ

第二十九條 船舶積量測度規程第二十條ニ掲クル扉ニ準スヘキ常設閉鎖裝置トハ引戸及振止釘又ハ鉤形止釘ヲ以テ閉鎖シ得ル板戸ヲ謂フ
出入口ノ兩側ニ設ケタル堅溝形材ニ插板ヲ爲セル裝置ハ之ヲ前項ノ常設閉鎖裝置ト看做サス

船樓、甲板室其ノ他ノ場所又ハ其ノ一部ニシテ出入口一箇ヲ有スルモノト雖該出入口ノ面積カ特大ニシテ出入口二箇以上ヲ有スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認メ得ヘキ場合ノ取扱ニ付テハ圖面ヲ添ヘ意見ヲ具シ本省ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十條 船舶積量測度規程第二十一條ニ掲クル適當ノ排水口トハ高約二十吋幅約十五吋ノモノトシ甲板間ニ設クル排水孔ノ間隔ハ約三十呎ニ付各舷一箇ノ割合トス但シ部分隔壁ヲ以テ區分セラル、場合ニ於テハ該區分毎ニ各舷一箇以上ノ排水孔ヲ設クヘキモノトス
船舶積量測度規程第二十條ニ掲クル排水口ノ寸法及排水孔ノ間隔ニ

付テモ亦前項ニ準ス

第三十二條 上甲板以上ニアル出入口ノミニ供用セラルル場所ハ之ヲ出入口室ノ一部ト看做シ其ノ噸數ヲ總噸數ニ算入セス

第三十三條 船舶積量測度規程第二十三條ニ掲クル艙口ノ噸數トハ暴露甲板ニ在ル艙口及載炭口ノ噸數ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

圍壁艙口ニ非サル艙口又ハ載炭口ノ徑、長又ハ幅三呎以下ナルトキハ其ノ噸數ハ之ヲ前項ノ艙口ノ噸數ニ算入セス

艙口ノ一部ニ出入口室ヲ假設スルトキハ該出入口室ナキモノト看做シ艙口ノ噸數ヲ算定ス

第三十四條 上甲板上ニ在ル採光通風ニ要スル場所ノ噸數トハ天窗、其ノ圍壁内及通風圍壁内ノ噸數ヲ謂フ

「カウル」「マツシユルム」「グースネツク」其ノ他專賣式ノ頭部ヲ有スル通風管ニシテ蔽圍シタル場所ニ在ル部分ノ噸數ハ之ヲ該場所ノ噸數ニ算入ス

第三十七條 操舵室ト海圖室トヲ同室内ニ設ケタルトキハ操舵ノ爲要スル場所ノ噸數ノミヲ操舵室ノ噸數トシテ算定スヘシ

船舶積量測度ニ關スル注意事項

第一 (規程第一條) 船舶積量測度規程ニ關スル事項

一、長、幅、深、高及厚ヲ測度スルニハ簡捷ヲ期スル爲單位下ノ第二位カ一又ハ二ナルトキハ切捨テ、三又ハ四ナルトキハ五ニ繰上ケ、六又ハ七ナルトキハ五ニ繰下ケ、八又ハ九ナルトキハ第一位ニ繰上クルコト但シ測度表尺度欄ノ長、幅及深ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

例

實際ノ寸法

15.22

測度表記入ノ寸法

15.20

15.23

15.25

15.27

15.25

15.28

15.30

ロ、分長點及分深點ノ間隔ノ三分ノ一ヲ算定スルニハ單位下ハ二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スルコト

ハ、船樓、甲板室又ハ水艙ノ分長點又ハ分深點ノ間隔ヲ算定スルニハ單位下ハ三位ニ止メ四位以下ハ四捨五入スルコト

二、(規程第二條)

イ、第一號ノ終尾船梁トハ普通ノ場合ニ於テハ「ツランソムビーム」ヲ謂ヒ「ツランソムビーム」ノ後方ニ横通梁アル場合ニ於テハ該横通梁ノ最終ノモノヲ謂フコト

二ノ二、(規程第三條及第六條) 船體ハ其ノ首尾ニ於テ曲度著シキヲ以テ首尾端ヨリ數ヘ第二ノ分長點ニ於ケル分深點及副分深點ノ位置ノ決定並幅ノ測定ニハ特ニ周密ナル注意ヲ要ス是レ位置ノ少差、測定

方ノ小異ト雖幅ニ於テ著シキ差異ヲ生シ且ツ之ヲ基礎トシテ算定シタル面積ニハ四ノ乘數ヲ乘スルヲ以テ其ノ結果噸數ニ多大ノ相違ヲ生スレハナリ

三、(規程第四條)

イ、分長點ニ於ケル深ノ測定ニ當リ艙口下ノミニ設クル内板張アルトキハ其ノ厚ヲ最下分深點ノ幅ニ等布シタルモノヲ船底内張板ノ平均ノ厚ト看做シテ取扱フコト

四、(規程第九條) 形狀稍不正整ナル場合ニ於テモ正當ナル結果ヲ得ヘ

シト認ムルトキハ本條ニ準シ取扱ヒ差支ナキコト

七、(規程第十八條)

イ、甲板室ニ内張板ノ設ナキトキハ長又ハ幅ハ圍壁防撓材ノ内面迄測ラスシテ圍壁迄測ルコト船樓端ニ付テモ同様ニ取扱フコト

第二 船舶積量測度心得ニ關スル事項

三、(心得第六條) 低船首尾樓内ニ於テ上甲板ノ延長面ヲ假定シテ之ヲ

三、上甲板ト看做ストキハ該樓内ノ諸室ノ噸數ヲ算定スル場合ニ於テモ此ノ假定面ニ依リ上甲板上ノ部分ト上甲板下ノ部分トヲ區別シテ取扱フコト

四、(心得第七條第二號)

イ、水平距離トハ龍骨ニ平行ナル距離ト解釋スルコト但シ船首ノ測點

ヨリ終尾ノ測點迄直線距離ヲ測リ得ル船舶ニ於テハ該直線距離ヲ

採ルモ差支ナキコト

ロ、特ニ大ナル「シ―ア」ヲ有スル船舶ノ量噸甲板ノ長ハ水平距離ヲ採ルルコト

五、(心得第七條第三號)

イ、木製帆船ニ於テ船尾ニ戸建アルモ戸建ヨリ船尾迄外板及甲板ニテ

蔽圍(水密構造)セラル、場所アルトキハ量噸甲板ノ長ハ戸建ニ止

メス船尾迄測ルコト

ロ、船尾戸建ノ傾斜著シキトキハ船尾分長點ノ深ヲ零トシ傾斜著シカ

ラサルトキハ之ヲ測定スルコト

六、(心得第七條第四號)

イ、木製帆船ニ於テ甲板ノ下面ト船首材トノ交叉部ヲ標準トシテ測ル

トハ肋骨及内張板ヲ無視スルノ意味ニ非サルコト

ロ、木製帆船ニ於テ船首ニ戸建アルモ戸建ヨリ船首材迄外板及甲板ニ

テ蔽圍サル場所アルトキハ量噸甲板ノ長ハ戸建ニ止メス船首材ヲ

標準トシテ測ルコト

八、(心得第十條第三項)

イ、普通ノ場合ニ於テハ本文ノ如ク梁受板、艙内縦通材及彎曲部縦通

材ヲ内張板ノ一部ト看做シ有ノ儘ニテ船艙ノ幅ヲ測リテ差支ナキ

モ若シ特ニ大ナル角材ヲ使用シタルトキハ相當斟酌ヲ加フルコト

ロ、縦通材ノミヲ有シ内張板ナキ船艙ノ幅ヲ測ルニハ分深點カ宛モ縦

通材ノ高ニ來タルトキハ縦通材ノ内面迄ノ幅ヲ測リ然ラサルトキ

ハ肋骨ノ内面迄測ルコト

十、(心得第十二條) 但書ノ規定ヲ適用スルニ當リ場所ニ依リテ肋骨ノ心距ニ差異アルトキハ各分長點毎ニ考フルコト

十三、(心得第十九條)

イ、全容積ヨリ算入スヘカラサル部分ノ容積ヲ減スル場合ニ於テ其ノ部分ノ寸法ヲ測定スルニハ外法ヲ採ルコト

船鑑札船測度手引

第一 一般心得

一、一般ノ注意

船舶ノ積量ハ之ヲ公ニシテハ課税ノ標準トナリ又船舶ノ資格ヲ定ムル要素トモナリ之ヲ私ニシテハ船舶ノ能力及價格等ヲ表明スル基礎トモナルヲ以テ之カ測度ニ際シテハ特ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ精確ヲ期スヘシ殊ニ總噸數二十噸附近ノ船舶ニ在リテハ若其ノ測度精確ヲ缺クトキハ實際總噸數二十噸以上ナルモ之ヲ二十噸未滿ニ測リテ船舶法ノ適用ヲ受ケサルニ至ルコトアルヘク或ハ又之ニ反シテ實際二十噸未滿ナルニ拘ラス之ヲ二十噸以上ニ測リテ船舶法ノ適用ヲ受クルニ至ルコトモアルヘシサレハ測度主任者ハ常ニ測度ニ關スル規程ニ注意シ之ニ通曉セムコトヲ心掛ケ疑義アル場合ニハ其ノ詳細ヲ具シ尙ホ必要ト認ムルトキハ圖面ヲ添へ遞信省管船局又ハ最寄管海官廳ニ照會スヘク或ハ隨時管海官廳ニ就キ實測方法等技術ニ關スル事項ヲ習得セラル、カ如キハ大ニ望マシキコトナリ又測度主任者ハ必ス自現場ニ臨ミテ測度ヲ執行シ一部分ノ測度ト雖之ヲ手傳人ノミニ委任スルコトナク尙左右兩舷ニ一見同様ト見ユル甲板室等アル場合ニ於テモ之ヲ同形ト即斷シ一方ノ測度ヲ省略スル等ノコトアルヘカラス

第二 測度準備

一、測度用品

測度ニ臨ムニハ測度手帖、卷尺、折尺、鉛筆、白墨等ヲ用意スヘシ
 測度手帖ハ機關ヲ備フル船舶ト機關ヲ備ヘサル船舶トニ依リ區別シ
 一定ノ形式ニ作製シ置キ測度シタル寸法ヲ直ニ手帖ノ相當欄ニ記入
 スルトキハ便利ニシテ且誤謬ヲ防クコトヲ得ヘシ

卷尺ハ濕潤其ノ他ノ原因ニ依リ收縮或ハ伸長シ誤差ヲ生スルコトア
 ルヲ以テ豫メ建物ノ壁等適當ノ場所ニ標準距離ヲ設定シ置キ時々之
 ト照合シ其ノ尺差ヲ檢定シタル上使用スヘシ又卷尺ヲ濕潤セシメタ
 ルトキハ良ク拭ヒテ充分乾燥セシメタル後更ニ油布ニテ丁寧ニ拭ヒ
 置ク様勉ムヘシ

卷尺及折尺ハ噸數船ノ測度ニハ英尺ノ十進法ニ依リ目盛ヲ爲シタル
 モノヲ用キ石數船ノ測度ニハ日本尺ノ目盛ヲ爲シタルモノヲ用ウヘ
 シ又鉛筆ニハ紐ヲ附シテ測度手帖ニ結ヒ附ケ置カハ紛失スルノ虞尠
 カラム

二、卷尺使用法及寸法ノ讀方等

實測ニ際シテハ測度主任者カ自身卷尺ヲ持チ寸法ヲ測リツ、同時ニ之
 ヲ手帖ニ記入スルコトハ甚タ困難ナルヲ以テ船員其ノ他ノ手傳人ヲシ
 テ卷尺ヲ使用セシムルヲ便トス此ノ際ニハ豫メ左ノ注意ヲ與ヘ置クヘ
 シ

イ、卷尺ノ目盛ハ普通布製ノ部分ヨリ始マラスシテ金物ノ先端ヨリ始
 マレルモノナレハ金物ニ拇指ヲ差シ込ミ之ヲ測度セムトスル場所
 ノ一端ニ當テ上下又ハ前後左右ニ偏セス又弛ミヲ生セサル様眞直
 ニ引張ルコト(第四圖)

ロ、測度スヘキ位置ニ卷尺ヲ引張リタル儘寸法ヲ讀ムハ困難ニ付一旦
 引張リタル後之ヲ弛メテ寸法ヲ讀ムコト尙目盛ノ數字ハ9ト
 6等讀違ヒ易キモノハ特ニ注意シ且繰返シ之ヲ讀ムコト

ハ、測度スヘキ場所ノ長ハ船ノ長ニ沿ヒタル寸法ヲ採リ長、幅、深又
 ハ高ノ順序ニ依リ測ルコト之ハ測度手帖ニ寸法ヲ記入スルニ手順
 宜シキタメナリ

二、船鑑札ニ記載スヘキ船ノ長(第五、六、七圖)

量噸甲板ノ長ヲ測ルトキハ同時ニ船鑑札ニ記載スヘキ船ノ長ヲ測定スルヲ便トス船鑑札ニ記載スヘキ船ノ長トハ量噸甲板上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長ヲ謂ヒ螺旋孔ヲ有スル船舶ニ在リテハ舵柱ノ後面ニ至ル長ヲ謂フ此ノ長ヲ測定スルニハ量噸甲板ノ長ノ船首基點ヨリ船首材ノ前面ニ至ル水平距離及船尾基點ヨリ船尾材又ハ舵柱ノ後面ニ至ル水平距離ヲ測リテ前者ヲ量噸甲板ノ長ニ加ヘ後者ヲ之ヨリ減シテ求ムルモ或ハ獨立ニ之ヲ測定スルモ可ナリ外舳ト内舳トヲ併有セシ木製帆船ニ於テハ上記ノ長ハ外舳ノ外面迄ヲ採ルヘク船尾ニ戸建ヲ有シ船尾材ヲ有セサルトキハ戸建ノ外面迄又螺旋推進器一箇ヲ有スル船舶ニシテ船尾材ノ後方ニ舵柱ヲ設ケス單ニ舵ノミヲ取附ケタル場合ニ於テハ舵頭ノ中心迄ノ寸法ヲ測ルヘシ

(第六圖)

五、船鑑札ニ記載スヘキ船ノ深及幅

船鑑札ニ記載スヘキ船ノ深ハ船ノ長ノ中央ニテ龍骨ノ上面ヨリ測ルモノニシテ甲板ヲ備フルトキハ中心線ニ於ケル甲板下面迄ノ深ヲ測リ之ヨリ梁矢ヲ減シテ得ヘシ

船鑑札ニ記載スヘキ船ノ幅ハ船體最廣部ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面換言スレハ外板ノ内面ヨリ内面ニ至ル幅ヲ採ルヘク之ハ最廣ト思ハル、部分ニ於テ數箇所ニテ測リ其ノ最大ノ寸法ヲ以テ之ニ充ツヘシ前記ノ幅及深ハ實地ニ臨ミ之カ測度ヲ失念シ易キモノナルカ故ニ注意ヲ要ス

第四 噸數船ノ測度表及噸數ノ算定方

二、上甲板下噸數ノ算定

甲板二層以下ナル船舶ニ在リテハ上甲板下噸數ハ即チ量噸甲板下噸數ニシテ之ヲ算定スルニハ先ツ各分長點ニ於ケル橫截面積ヲ求メサル可ラス分長點ノ橫截面積ヲ算定スルニハ分深點ヲ上端ヨリ數ヘ第一及第五ノ幅ハ一倍シ第二及第四ノ幅ハ四倍シ第三ノ幅ハ二倍シ其

積ノ和ニ分深點間隔三分ノ一ヲ乘スヘシ
 此處ニ一言注意スヘキコトアリ總テ噸數算定ニ際シ分長點間隔及其
 ノ三分ノ一、分深點間隔及其ノ三分ノ一、面積、容積及噸數ハ何レ
 モ單位下第二位ニ止メ三位以下ハ四捨五入スヘキコトナリ

例

分長點番號	第	三	
分長點ノ深	5.00		
分深點間隔	1.25		
分深點番號	乘數	幅呎	積
第一	1	8.70	8.70
第二	4	8.40	33.60
第三	2	7.95	15.90
第四	4	6.50	26.00
第五	1	1.00	1.00

積ノ和

85.20

分深點間隔三分ノ一

× .42

面積

35.78

量噸甲板下ノ噸數ヲ算定スルニハ量噸甲板ノ長カ五十呎以下ノ場合
 即チ之ヲ四等分シタル場合ニハ分長點ヲ船首ヨリ數ヘ第一及第五ノ
 面積ハ一倍シ第二及第四ノモノハ四倍シ第三ノモノハ二倍シ其ノ積
 ノ和ニ分長點間隔三分ノ一ヲ乘シテ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ量
 噸甲板ノ長カ五十呎ヲ超ユル場合即チ之ヲ六等分シタル場合ニハ第
 一及第七分長點ノ面積ハ一倍シ、第二、第四、第六ノモノハ四倍シ
 第三及第五ノモノハ二倍シ其ノ積ノ和ニ分長點間隔三分ノ一ヲ乘シ
 テ得タル容積ヲ百ニテ除スヘシ

例



量噸甲板ノ長54.40呎	長等分數6	分長點間隔9.07呎
分長點番號	乘數	面積
第一	1	0
第二	4	34.86
第三	2	37.17
第四	4	38.54
第五	2	37.65
第六	4	32.21
第七	1	15.78
積	積	積
		0
		139.44
		74.34
		154.16
		75.30
		128.84
		15.78

積ノ和 587.86
 分長點間隔三分ノ一 × 3.02
 容積 1775.34
 噸數 17.75

備考 本船ハ船尾ニ戸建チ有シ其ノ傾斜著シカ
 ラサルナリ以テ第七分長點即チ第七分長
 點ノ面積ハ零ナラサルモ戸建チ有セサル
 場合ハ又ハ戸建チ有セサル
 場合戸建チ有セサルモ傾斜著シキ場
 合ニテ圍ハレタル水
 ヲリ船尾迄甲板及外板ニテ圍ハレタル水
 密構造ノ場所アルカ爲全部ノ

三、上甲板上ノ場所ノ噸數ノ算定

總噸數ニ算入スヘキ上甲板上ノ場所ハ船樓、甲板室及艙口ナリ若シ
 船主ノ申請アリタル場合ニハ機關室ノ一部又ハ全部ヲモ之ニ加フル
 コトアリ此等ノ場所ノ噸數ヲ算定スルニハ孰レモ長、幅、高ヲ相乘
 シテ容積ヲ求メ之ヲ百ニテ除スヘシ此際一區畫トシテ噸數ヲ算定ス
 ヘキ場所ナルモ形狀複雑ナル爲二個以上ニ區分シテ寸法ヲ測定シタ
 ル場合又ハ一局部ニ總噸數ニ算入スヘカラサル場所アルカ爲全部ノ
 寸法ト除外スヘキ場所ノ寸法ト別々ニ測定シタル場合ニ於テハ各
 部分ノ長、幅、高ヲ別々ニ記入シ其ノ容積ヲ算定シ減スヘキモノハ
 減シ加フヘキ者ハ加ヘ其ノ結果ノ容積ヲ下行ニ記入シ之ヲ噸數ニ換
 算スヘシ

例

位置及名稱	平均ノ長 ^呎	平均ノ幅 ^呎	平均ノ高 ^呎	容積	噸數
船尾船員室	9.20	7.40	3.30	224.63	

同室内貯室	2.00	2.60	”	—17.16	2.08
-------	------	------	---	--------	------

艙口ノ噸數ノ總和カ總噸數ニ算入スヘキ艙口以外ノ場所ノ噸數ノ千分ノ五以下ナルトキハ之ヲ總噸數ニ加ヘス千分ノ五ヲ超ユルトキハ該超過噸數ノミヲ總噸數ニ算入スルモノナルコトニ注意スヘシ

例

上甲板下ノ噸數 17.20
 上甲板上艙首索具庫 1.29
 合計.18.49 噸

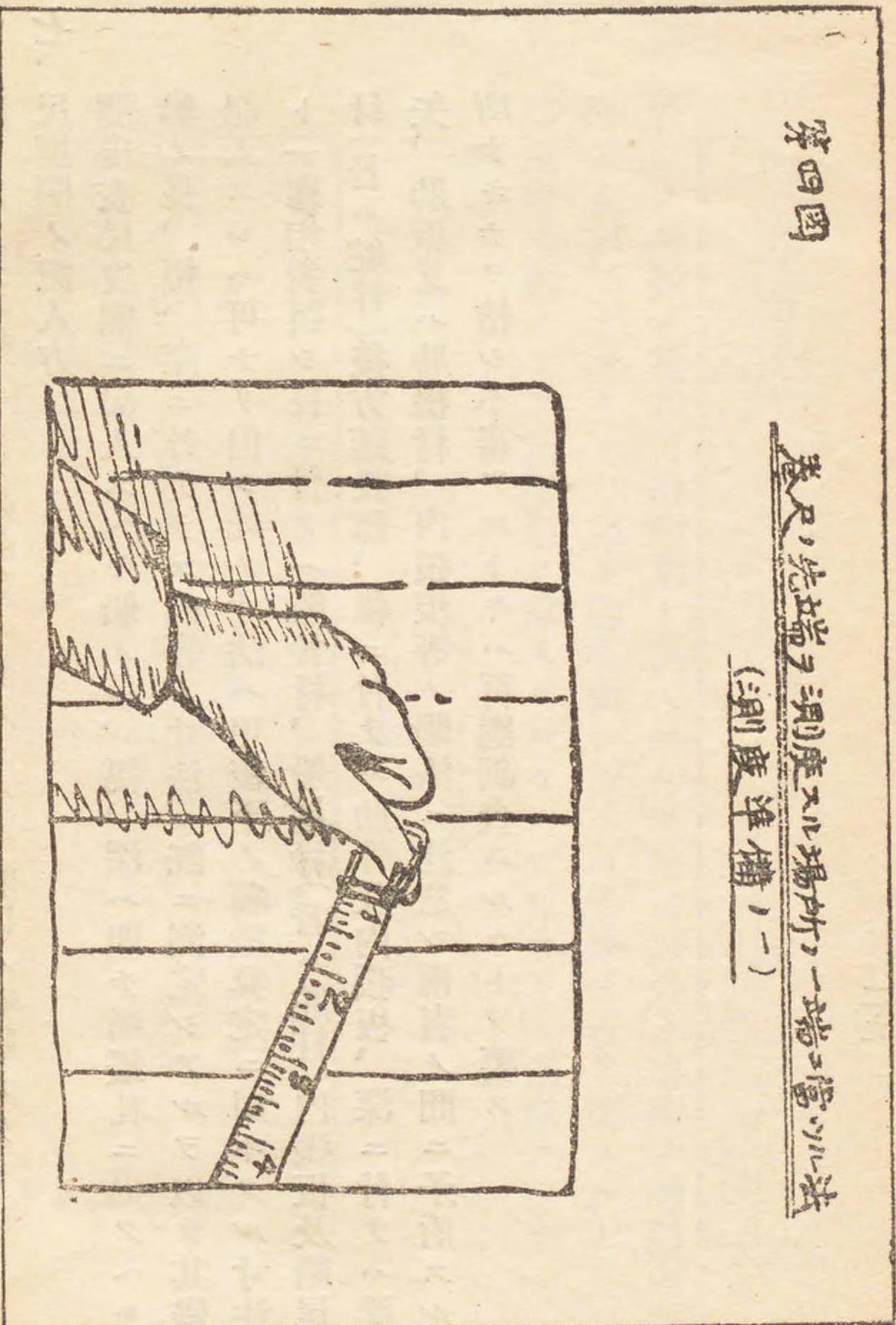
位置及名稱	平均ノ長 ^呎	平均ノ幅 ^呎	平均ノ高 ^呎	容積	噸數
第一 艙口	6.00	5.50	.65	21.45	.21
第二 艙口	4.60	4.00	.60	10.80	.11
合計噸數					.32
艙口以外ノ場所ノ噸數					18.49
同上噸數ノ千分ノ五超過噸數					0.09
					.23

七、 即チ〇・二三噸ノミカ總噸數ニ算入スヘキ艙口ノ噸數ナリ
 尺度欄ノ記入方

測度表尺度欄ニ記入スヘキ船ノ長、幅、深ハ即チ船鑑札ニ掲クヘキ船ノ長、幅、深ニ外ナラス此等ノ寸法ハ既ニ測定シアルヲ以テ其儘記入スレハ可ナリ但シ此ノ寸法ハ甲板下ノ噸數算定ニ用キタル寸法ト一應相對照シ長ニ付テハ船首材、船尾材(若ハ舵柱)内張板及船尾材(若ハ舵柱)後方延長部、幅ニ付テハ肋骨及内張板、深ニ付テハ梁矢、肋板又ハ肋根材、内張板等ノ關係ニ注意シ兩者ノ間ニ矛盾スル所ナキカヲ檢シ不審アルトキハ再應調査スルコトヲ要ス

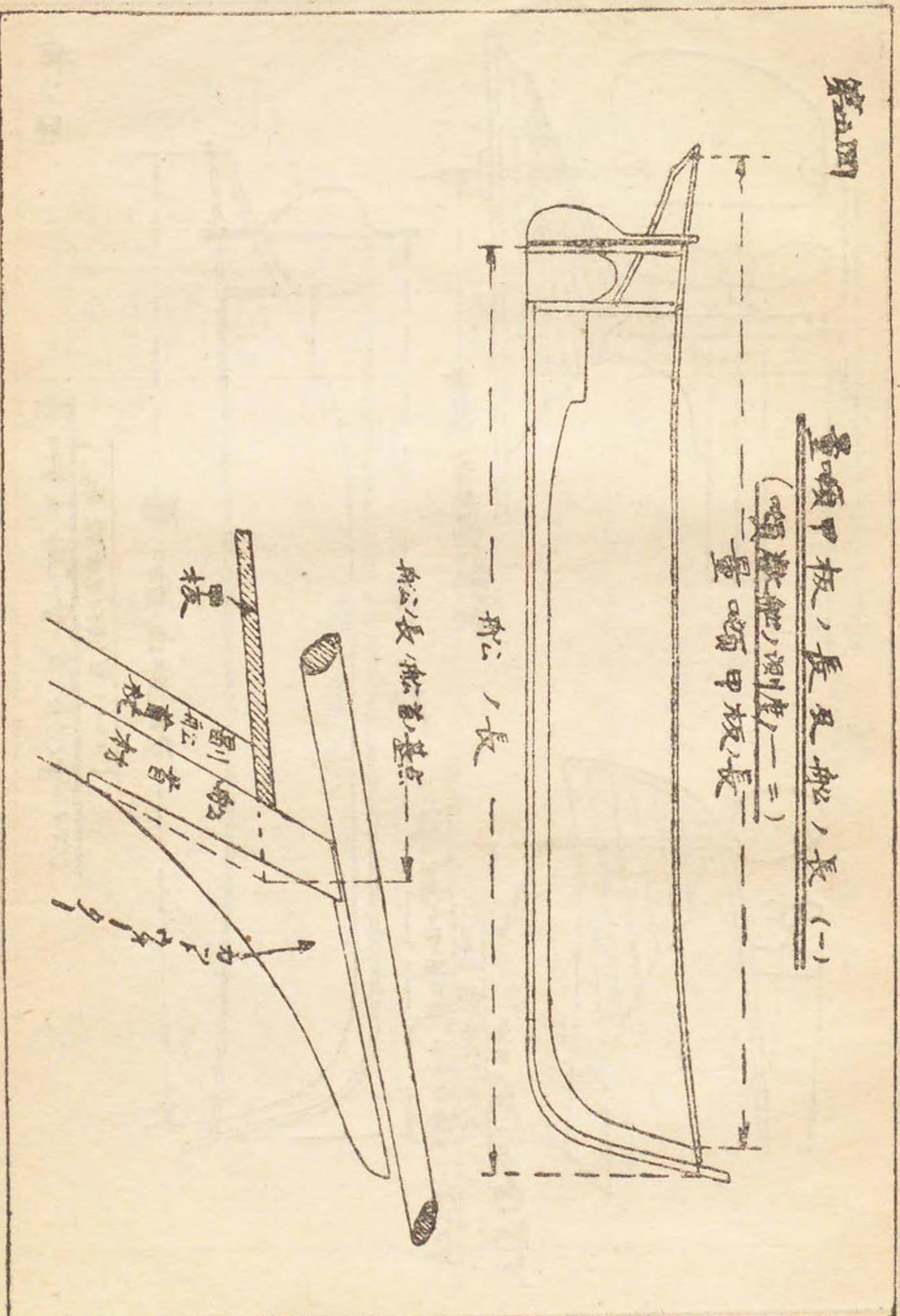
第四圖

卷尺先端ヲ測座ニ以場所、一端ニ當リル法
(測度準備ノ一)



第五圖

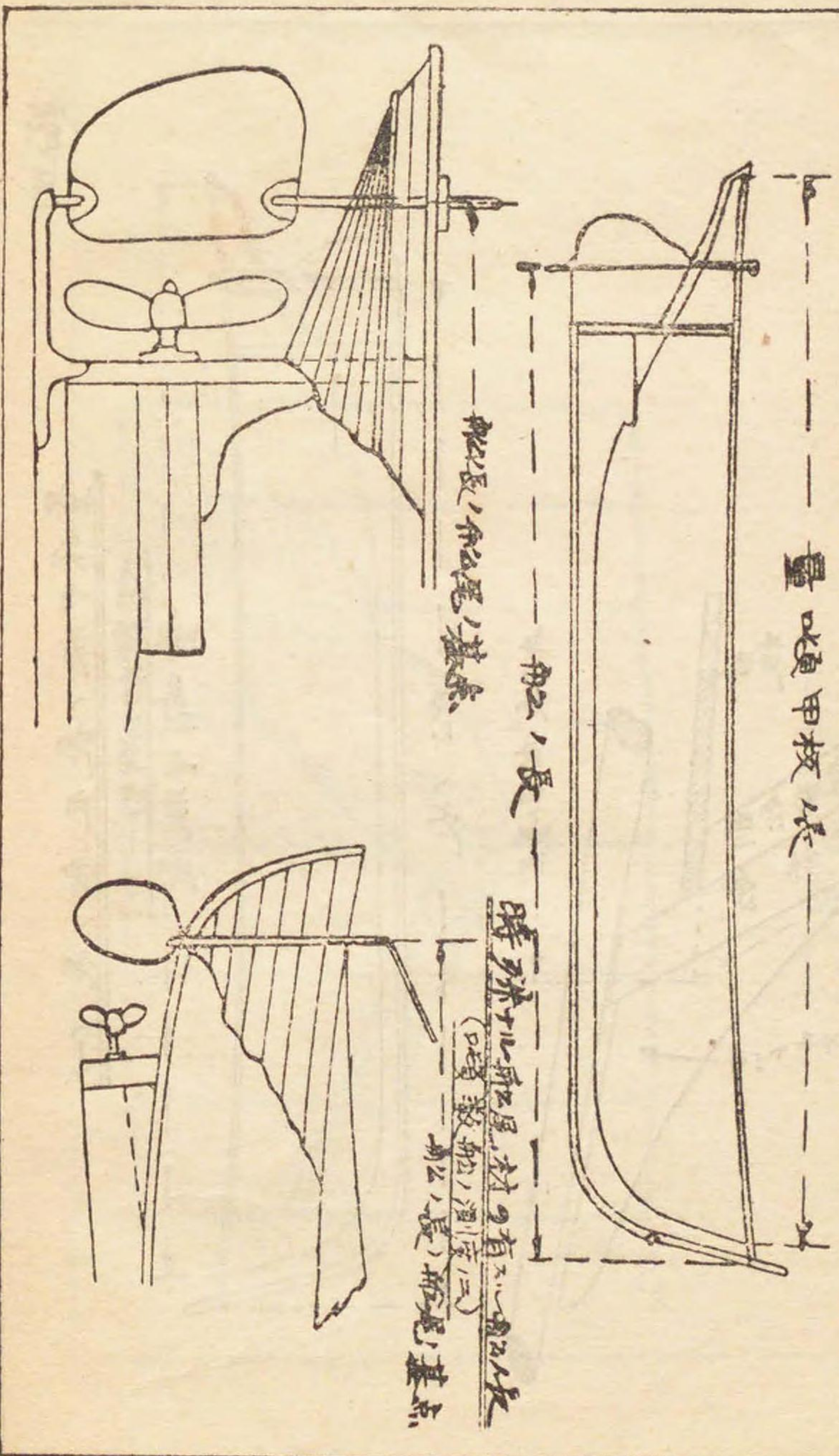
量噸甲板ノ長及船ノ長 (一)
(噸座船ノ測度ノ一)
量噸甲板ノ長



第六圖

量噸甲板長及船長 (二)
(噸數船公測度一三)

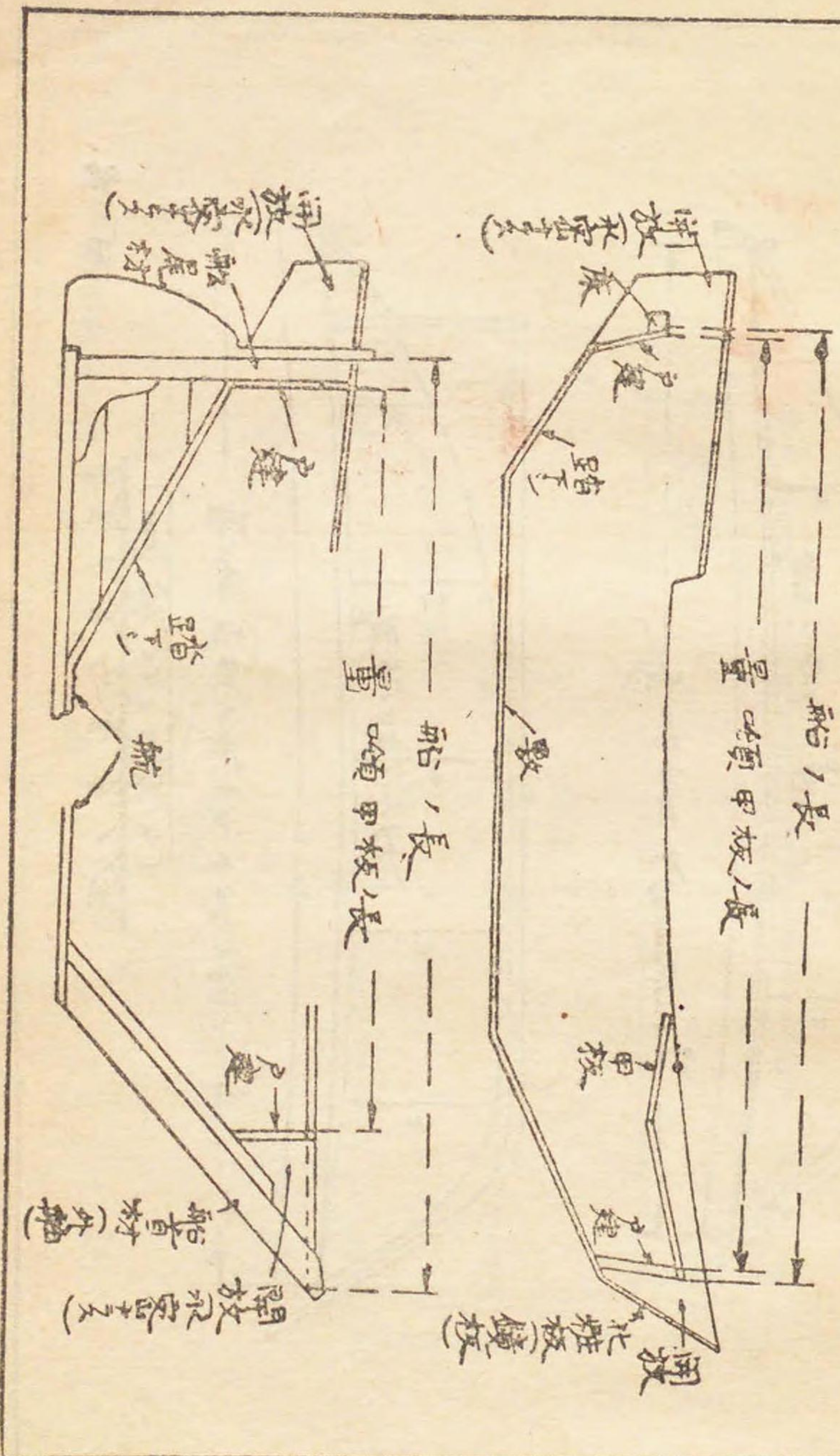
量噸甲板長



第七圖

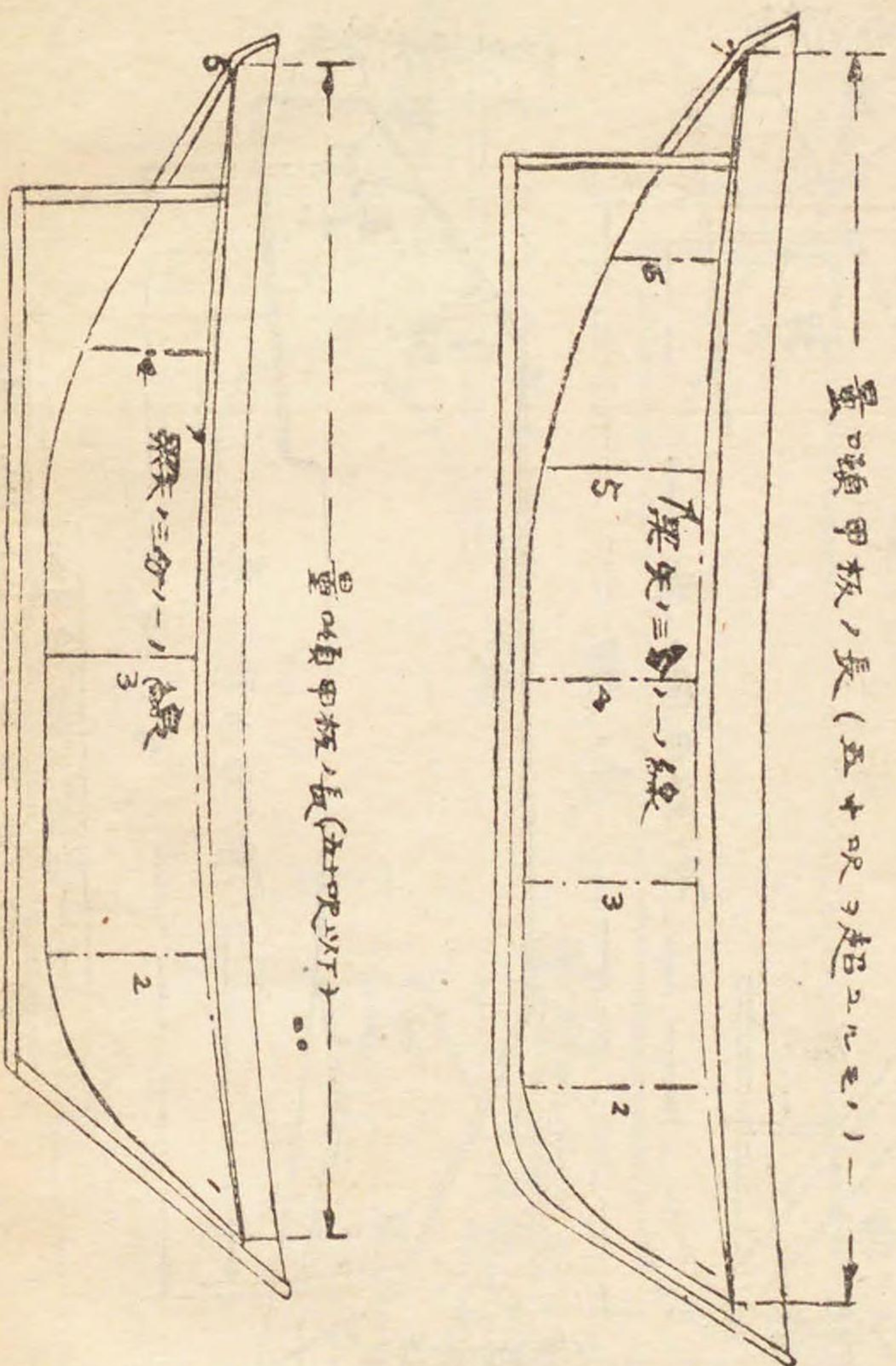
量噸甲板長及船長 (三)
(噸數船公測度一三)

量噸甲板長



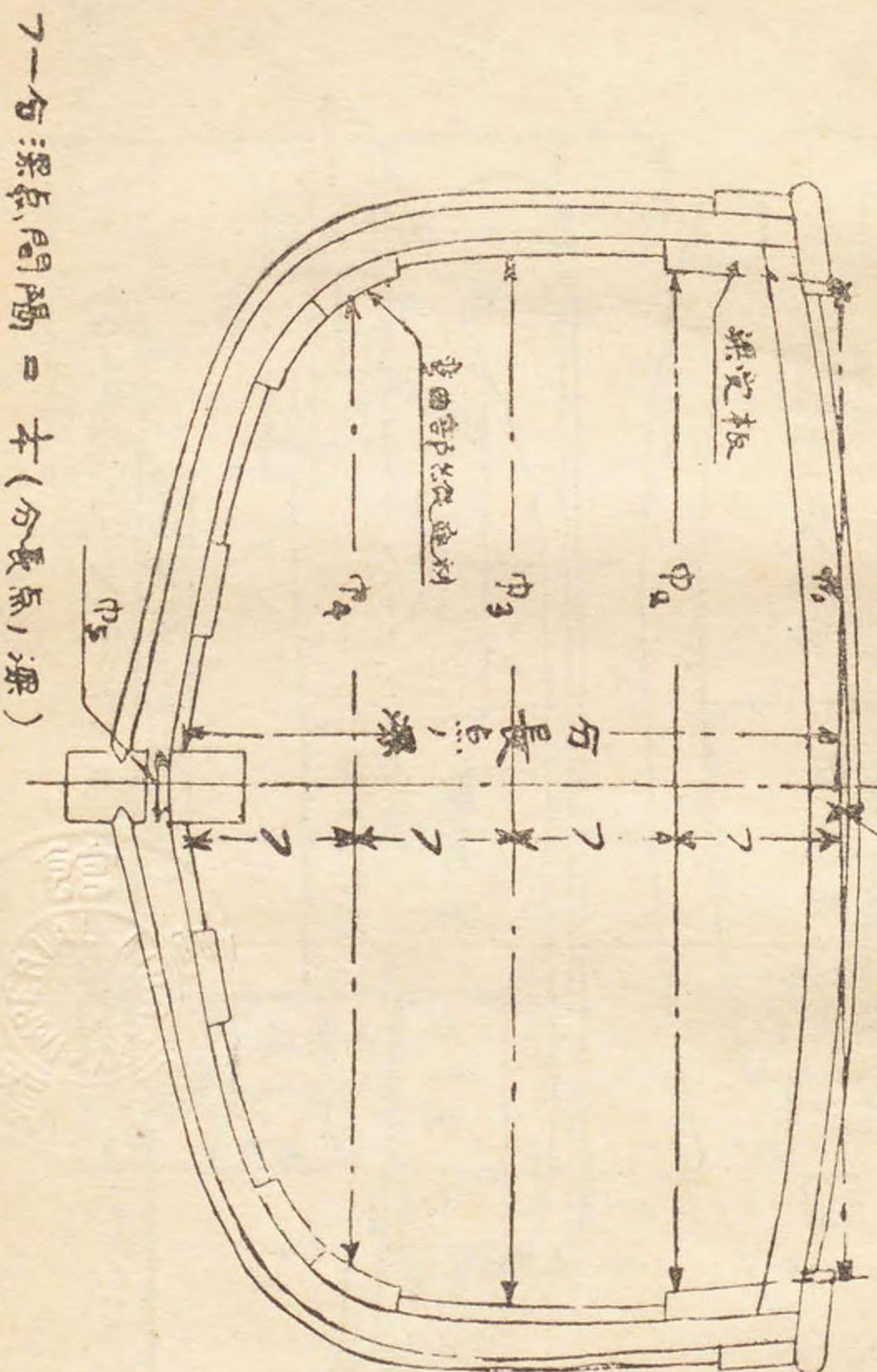
第一圖

分長點及分長點ノ深
(噸數ノ測度ニ)



第九圖

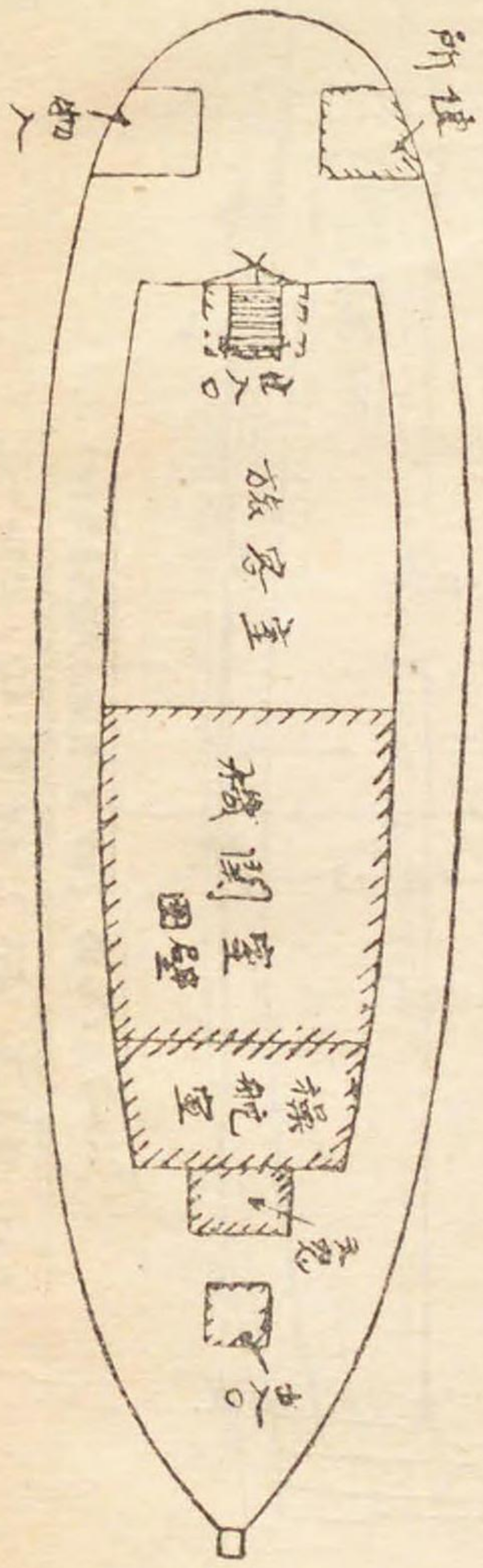
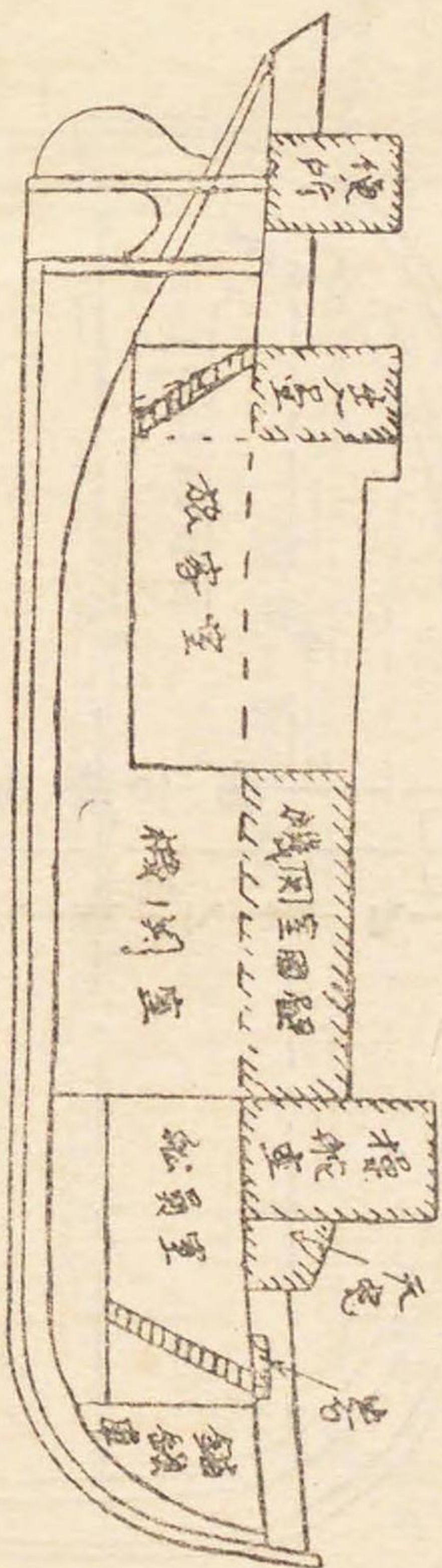
木船ノ分長點ノ深及幅 (一)
(噸數ノ測度ニ) 梁矢ノ三分一



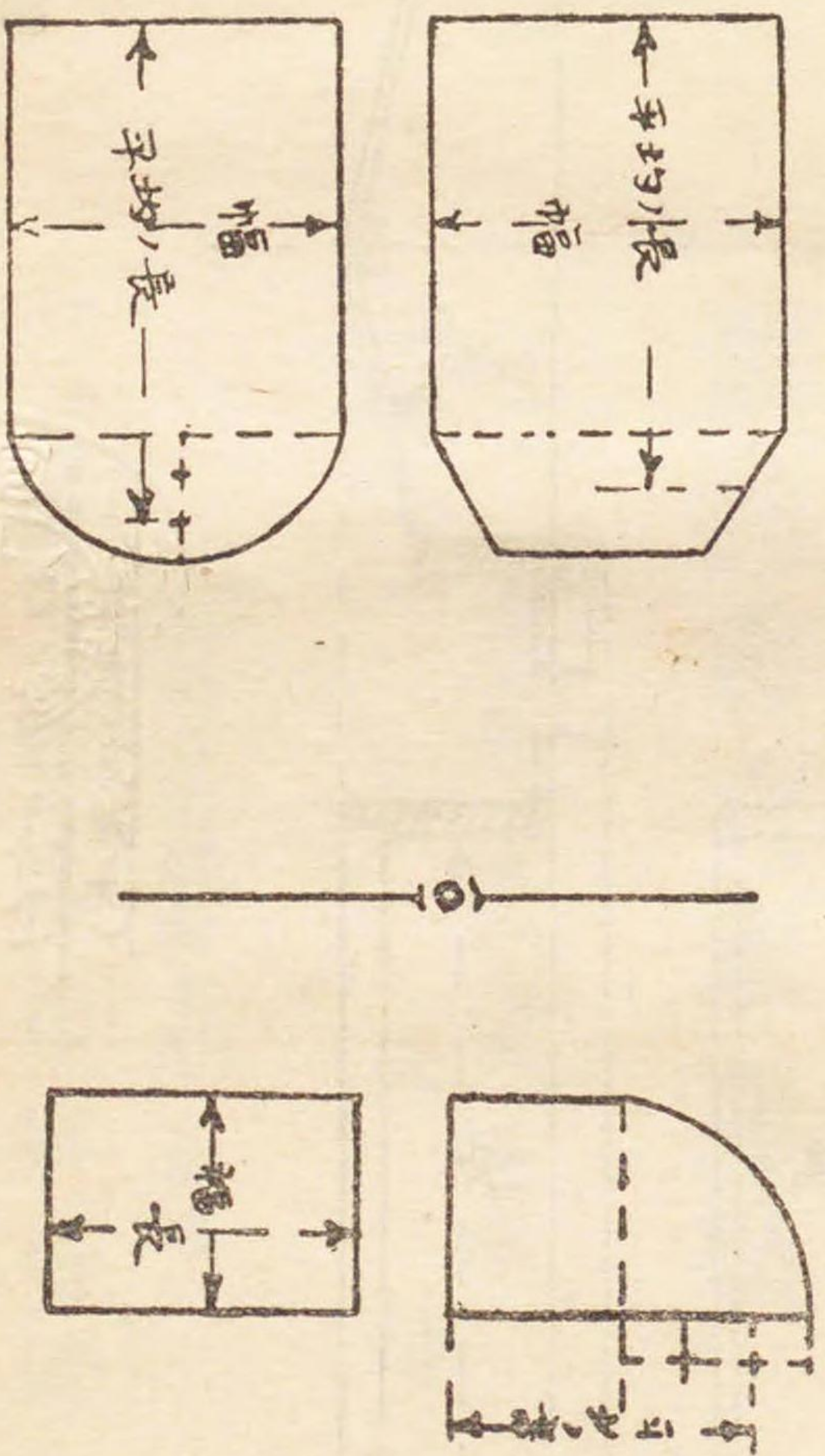
分長點間隔ニ本 (分長點ノ深)

第十二圖

總噸數計算上甲板以上場所 (一)
(噸數船, 測度, 六)



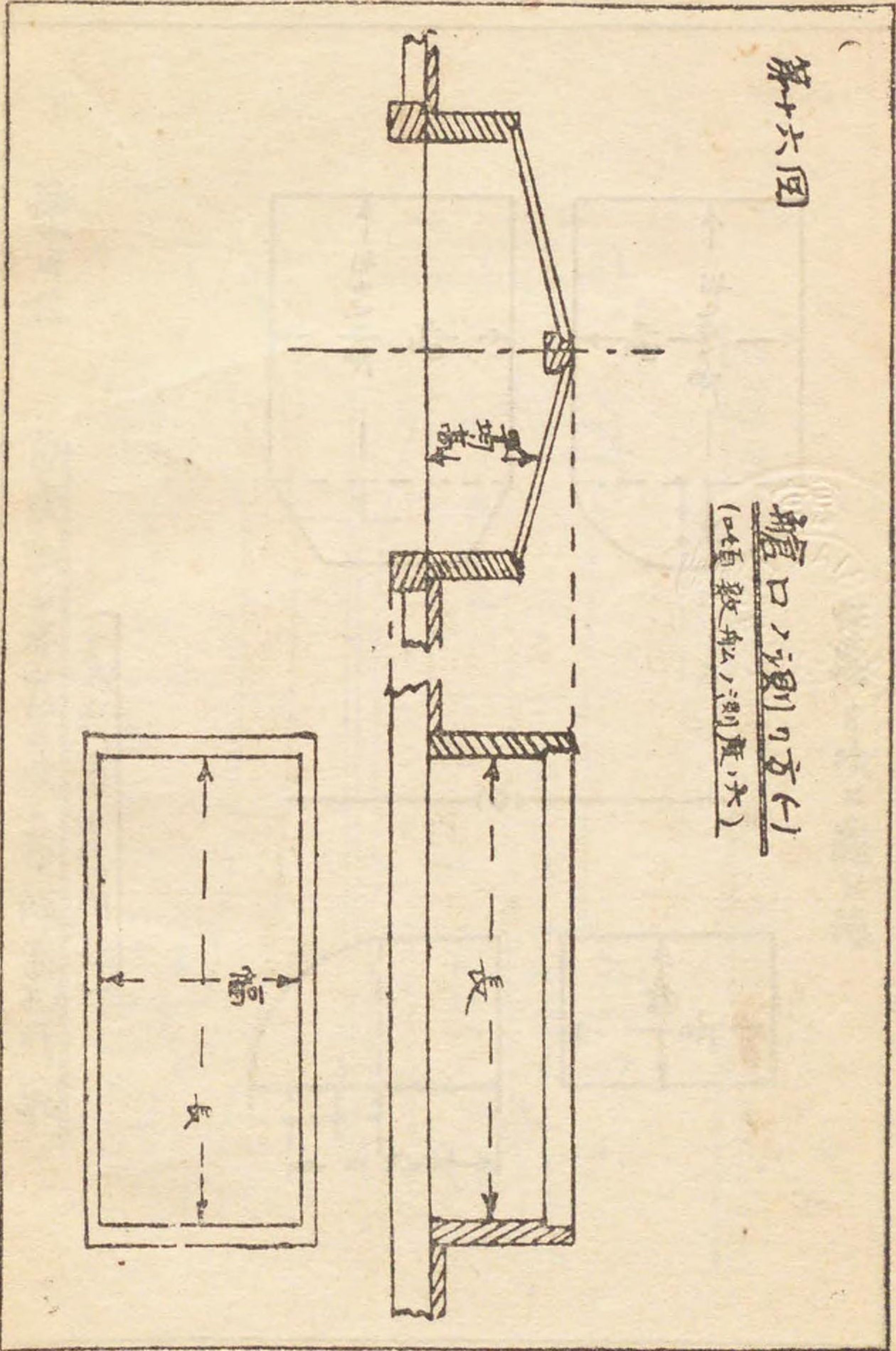
第十五圖 船殼平均長中區高測度法
(噸數船, 測度, 六)



容積 = 長 × 幅 × 高

第十六回

船口ノ測方(一)
(口直線船ノ測方:大)



大正九年十一月十五日印刷
 大正九年十一月十八日發行

農商務省水産局

印刷者 石丸鶴吉
 東京市京橋區鈴木町二番地

印刷所 東亞印刷株式會社
 東京市京橋區鈴木町二番地

396
38

